

編集後記

まずは論文・作品の審査をお願いした教員諸氏にその労をねぎらいたい。この審査は単に面倒なばかりでなく、いわば同僚の研究を評価することであるからやりにくいということもある。けれども前向きに取り組むならば、審査する側にも何らかの得るところがあると考えられるし、審査を通して審査員自身も試されている面もある。つまり面倒ではあるけれどもやり甲斐のある有意義な作業なのである。ここから敷衍するならば、紀要の刊行の意義は、審査をめぐって教員相互が切磋琢磨をする場を提供することにあるとさえ言えよう。

論文・作品の審査が面倒でやりにくいということがあって、お願いした期日を守られない審査員がままおられる。これが紀要の発行が遅延する主な理由となっている。どうか指定した期日までに審査を終えるようお願いしたい。

さて国立情報学研究所では、国内の学協会の発行する学協会雑誌の電子化・公開を進めてきたが、さらにその範囲を拡大して各大学・研究機関で発行している研究紀要も電子化し公開する事業に取り組むとのことである。そこで紀要委員会で検討の結果、本紀要もその事業に協力することにし、バックナンバーについては執筆者には電子化・公開について昨年秋に承諾書の提出をお願いしてきた。本号以後の執筆者におかれても、この点のご理解を得たく願っている。ご自分の著作を非公開とされる場合は、ご面倒でもその旨書面で紀要委員会に申し出ていただきたい。

表紙の作品は高梨隆雄氏をお願いした。快諾されて、氏の投稿論文とも関係するがレオナルド・ダ・ヴィンチの作品を素材にした興味深いデザイン図を寄せられた。この作品を味わうために、「表紙のことば」もぜひ一読されたい。

平成 15 年 3 月

紀要委員会 委員長 利 光 功

芸術世界

東京工芸大学芸術学部紀要 Vol. 9

2003 年 3 月 31 日 発 行

編 集	東京工芸大学芸術学部 紀要委員会
発 行	東京工芸大学芸術学部 〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 Tel. (03) 3372-1321 Fax. (03) 3372-1330
印 刷	有限会社 啓文堂 松本印刷 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12